

エクストリームシリーズ 2022 尾瀬檜枝岐大会

■優勝チーム コメント

『日本縦走計画』

近藤えりさん

こんにちは。尾瀬檜枝岐大会に参加された皆さま、お疲れさまです。

私たち日本縦走計画は、エクステラ（オフロード版トライアスロン）で知り合った仲間構成されています。ひらめきで行動する多動傾向の妻（近藤）と、いやいや参加させられているわりに足の速い夫（新井）、その夫婦に挟まれても気にしない美人マウンテンバイカー（竹嶋優子）です。

地図読みは初心者で、那珂川では尾根と沢を間違えて突き進み、「迷ったらもとに戻る」の鉄則を破りほんとうに真っ暗闇で迷子になりました。猛反省から檜枝岐では合言葉を「突っ走らない。地形を読もう」としました。

CP1～CP7 は CP2 の歌舞伎を演じた後、体力のあるうちにゲレンデの CP3、CP4 をやっつけ、CP1 のシイタケをクリア。CP5、CP6 では他のチームとも沢山すれ違い、自分たちの順位はわからず。CP7、CP8 までの長い舗装路はザックを新井にもたせ、歩きたい願望を抑え、なんとか走り続けました。CP8 でトップを知った時は、「これはまずい！冷静に！」と 3 人で脳をクールダウンさせました。

CP11 までの MTB セクションはマウンテンバイカー優子に背中を押してもらい、アシスト自転車さながらの快走となりました。ところが快走も束の間。しょっぱなのリバーランで脚が冷えていたのか、一度ふくらはぎが攣り始めると右も左も脛も足首もどンドン連鎖して攣り始め、ウーウーという悶絶の世界へ。

MTB を降りてからは「脚攣ってない、攣ってない」という自己暗示が功を奏し、CP12 は橋からコンパス直進でバッチリ。CP13 は地形を読んで尾根伝いに行くことも考慮しましたが、実際の様子を見ると笹藪が果てしなく続き、尾根もはっきりしていなかったのを道を使う案を採択。CP13 はピタリ賞、その流れで CP14 もなるべく道を利用し沢歩きを最短にする作戦でクリア。

先頭というのは爽快です！しかし、踏み痕がない所に進んで行く不安、後ろとの距離が分からないから必死に走らないといけない。この 2 点が苦しみでもあるんですね。またとない経験をありがとうございました。